

えん + じん

発行:
多賀城市市民活動サポートセンター
(たがさぼ)

第6号 【毎月1日発行】
発行日:平成24年3月1日

えんじんは、被災地で生活している方、復興支援活動をしている方を応援する情報誌です。

えん+じん3月号 目次

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 ページ…NPO相談窓口 | 震災によって困りごとを抱える方の相談窓口です |
| 2, 3 ページ…安心できる子どもの居場所 | 子どもの支援や居場所づくりを行っている団体です |
| 4 ページ…自治会・町内会活動紹介 | 仮設住宅自治会の活動事例です |
| …たがさぼ情報ツール | たがさぼから得ることができる情報の紹介です |



NPO相談窓口

被災者の困りごとや悩みごとに対応する相談窓口を紹介します。

●いのちの電話「震災ダイヤル」●

震災による悩みを相談してください。不安な気持ちやつらいこと、話してみませんか。

対象:震災に関してお悩みの岩手、宮城、福島、茨城の方

団体:一般社団法人日本いのちの電話連盟

電話:0120-556-189(通話料無料)

時間:午後1時～午後8時(毎月10日は除く)

H P:<http://www.find-j.jp/>

●被災者専用人権ホットライン●

被災地から来たということで、いじめや差別を受けた、性的嫌がらせを受けた、避難所などでトラブルに巻き込まれた等、どこに相談してよいのかわからないという方はぜひご連絡ください。

対象:人権に関してお悩みの被災者の方

団体:NPO法人World Open Heart(ワールドオープンハート)

電話:022-398-7129(宮城)

時間:午前9時～昼12時 午後1時～午後5時(月～金曜)

H P:<http://worldopenheart.com/>

●認知症の介護に関する相談電話●

認知症の方の介護は、経験をしてみないと、大変さが分からないと思います。介護経験者が事例等を提示しながら、相談に応じます。

対象:認知症の方、認知症の家族の方

団体:公益社団法人認知症の人と家族の会 宮城県支部

電話:022-263-5091(宮城)

時間:午前9時～午後4時(月～金曜 祝日は除く)

H P:<http://www.alzheimer.or.jp/>

●労働相談電話●

賃金未払い、解雇、倒産、労災、労働組合作りなど、労働に関する問題ならなんでも無料で受付けています。

対象:労働に関することでお困りの方

団体:NPO法人労働相談センター

電話:03-3604-1294(東京)

03-3604-5983

03-5650-5539

時間:午前9時～午後5時(月～金曜 日曜は正午から)

H P:<http://www.rodosodan.org/>

●難病相談電話●

看護師などの専門の相談員を配置し、難病に関する様々な相談に応じています。プライバシーには万全を期していますので、お気軽にご相談ください。

対象:難病に関してお困りの方

団体:宮城県難病相談支援センター

電話:022-212-3351(宮城)

時間:午前10時～午後5時(月～金曜)

毎月第2日曜、第3土曜は午前11時～午後4時

H P:<http://www18.ocn.ne.jp/~miyagi-p/>

●聴覚障害相談●

被災した聴覚障害者やその家族、関係者からの相談に応じます。生活再建に関する困りごと、悩みや不安などお気軽に相談ください。

対象:聴覚障害者やその家族、関係者

団体:みやぎ被災聴覚障害者情報支援センター(みみサボみやぎ)

電話:022-349-9655(宮城)

FAX:022-349-9655

時間:午前9時30分～午後5時30分(月～土曜)

H P:<http://www.mimisuppo-miyagi.org/>

E-mail:info@mimisuppo-miyagi.org

「たがさぼ」では、東日本大震災によって被災された方に対して、被災者支援活動の情報を提供しています。また、ボランティア活動を始めたい方からの相談や、すでに地域づくりに取り組んでいる団体のみなさんからの相談に応じています。来館はもちろん、お電話でも受け付けております。ぜひ「たがさぼ」までご相談ください。

被災者支援活動紹介

安心できる子どもの居場所

災害子ども支援ネットワークみやぎ
チャイルドラインみやぎ

ミヤギユースセンター
塩釜子ども劇場

子どもたちは、大人以上に日常の変化を敏感に捉え、また、その変化に対し不安を感じます。しかし、その不安や悩みをまわりにうまく伝えることができない、誰に伝えたらよいか分からない、といった子どもたちもたくさんいます。3月、4月は進級、進学、就職等で子どもを取り巻く環境に変化が生じる時期です。今回は、不安や悩みを抱えた子どもたちや子育て中の方に対し、支援や相談、居場所づくりを行っている団体を紹介します。

ネットワークを活かして子どもをサポート 災害子ども支援ネットワークみやぎ

宮城県で子どもの支援を長く続けてきた小林純子さんは、震災後、避難所の「こどもひろば」の運営や物資支援を行ってきました。しかし、単独で活動するよりも団体同士が連携すれば、さらに幅広く専門的な支援ができるという考えから、他団体へ協力を呼びかけ「災害子ども支援ネットワークみやぎ」を設立しました。運営には、子育て支援団体や学識経験者、助産師、栄養士、劇団など、90以上の団体や個人が携わり、それぞれの持つノウハウを活かして支援活動を行っています。

子どもたちの中には、津波で家族や友達を失った子、不安で親から離れられない子、つらい気持ちを我慢して抱え込んでいる子も少なくありません。震災の経験を心の傷として残さないためには、きめ細かいサポートを長期的に続けていくことが必要となります。

災害子ども支援ネットワークみやぎでは、物資支援や学習支援、子どもの心のケア、居場所づくりなどさまざまな支援を行っています。物資支援は、被災者のニーズを受け、全国から寄せられた物資(スクールバッグ6,000枚など段ボール約200個分以上)を被災地に届け

ました。また、子どもの感情を解き放つワークショップの開催や子どもの電話相談を行っているボランティアを被災地に派遣し相談相手になる、といった心のケアの活動も行っています。

子どもに対してだけではなく、子育て支援として被災者やひとり親を対象とした託児スペースの運営も県内2カ所(青葉区本町、宮城野区幸町)で行っています。託児スペースでは、単に子どもを預かる場所、というだけではなく、相談にも応じ、生活再建に向けてがんばる子育て中の方を応援しています。

団体名：災害子ども支援ネットワークみやぎ
住所：仙台市青葉区川平1-16-5
スカイハイツ202
電話：022-279-7239
FAX：022-279-7239
E-mail：saigai_kodomo@yahoo.co.jp
HP：http://saigai-kodomo.org/
ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/saigai_kodomo

なやみごとをはなしてごらん

「ヒミツはぜったいだれにももらさない」「どんなことでもいっしょに考える」「名まえは言わなくていいよ」「イヤなら切っていいよ」この4つを約束している18歳までの子ども専用の電話があります。

チャイルドラインは、困っているとき、悩んでいるとき、なんとなくだれかと話したいとき、学校・家庭・自分のことを何でも相談できる電話です。相談には、研修を受けたボランティアが応じています。

被災した子どもたちの心の重荷が少しでも軽くなってほしいという思いから、すべての公立小・中・高校にチャイルドラインを知らせるカードを配りました。カードを配り始めた8月の宮城県のアクセス数は1,160件、9月1,843件、10月3,021件と電話の件数は増加しており、配布の効果が出ているようです(2010年度のアクセス数は年間10,512件 月平均876件)。大人に対しても「子どもの話を聴く余裕がないときにはチャイルドラインにかけさせてほしい。」と呼びかけています。

震災からまもなく1年。心のケアの重要性がさらに高まる中、全国どこからでもフリーダイヤル(通話料無料)でかけられるチャイルドラインは、子どもたちの声を受けとめ続けています。

18歳までのこどもがかける電話 **チャイルドライン**
相談電話：**0120-99-7777**
※携帯電話やPHSもOK まいにち午後4時～午後9時

NPO法人チャイルドラインみやぎ



チャイルドラインをお知らせするカード

団体名：NPO法人チャイルドラインみやぎ
住所：仙台市青葉区川平1-16-5
スカイハイツ102
電話：022-279-7210
FAX：022-279-7210
E-mail：c.l.miyagi@viola.ocn.ne.jp
HP：http://www2.ocn.ne.jp/~clmiyagi/

子どもたちの「がんばらなくちゃ」を応援する NPO法人ミヤギユースセンター

ミヤギユースセンターは、不登校・引きこもりの小・中学生、高校生、高校中退者に対して高校卒業、高卒資格取得のための学習支援、就職や進路で悩む青少年の自立支援を行っている団体です。発達障がいのある方にも対応しており「自分に合った進路を見つけない」という相談に、一人一人の特性に合った情報の提供と支援をしています。

震災後、混乱した状況だからこそ子どもたちが安心して相談できる場所が必要であると考え、3月22日には活動を再開しました。相談の中には、中学校時代に不登校となり、高校を中退してミヤギユースセンターに通いながら大学を目指していた子どもから「今回の震災で、また家から出られなくなった。」というものがありました。代表の土佐さんは、不安な気持ちを受け止め、寄り添いながら支援を続けています。現在は、少しずつ元気を取り戻しているそうです。

以前は15、6歳からの相談が多かったのですが、最近では相談者の年齢層が上がってきています。震災によって世の中の状況が変わったことで、不登校が長期化していた青少年に「このままではいけない、自分もがんばらなくちゃ」という気持ちの変化が現れ、相談につな

がっているようです。一方で、若者が求めている仕事と社会から求められている仕事のミスマッチにより、若者の就労意欲が減退している様子も見られます。そのような若者や保護者を対象に、就労に関するセミナーも開催しています。「震災後の厳しい状況だからこそ、自分自身を変えていくことの大切さや、働くことが人生を支えているということ子どもたちに伝えていきたい。」と土佐さんは言います。

ミヤギユースセンターは「夢を創造し、未来を切り拓く」ために、たくさんの情報と幅広いネットワークの中から相談者に一番合った進路を一緒に考えます。

電話・メール・面談での相談に無料で応じています。匿名も可能なので安心して相談することができる場所です。

団体名：NPO法人ミヤギユースセンター
住 所：仙台市宮城野区榴岡2-2-8-203
電 話：022-256-7977
FAX：022-256-7977
E-mail：miyagi_yc@ybb.ne.jp
H P：http://www.miyagiyouht.npo-jp.net/

活動を通して絆を育む子どもたちの居場所 塩釜子ども劇場

塩釜子ども劇場(以下、子ども劇場)は、舞台鑑賞を通して、子どもたちに豊かな感受性とたくましい創造性を育むことを目的に塩釜を中心に多賀城や周辺地域で舞台イベントを開催しています。

塩釜にあった事務所は、津波の被害を受けてしまいました。一時は活動の存続が危ぶまれましたが、震災から3ヵ月後には舞台イベントを再開、今年度は5回の舞台イベントを開催し、たくさんの親子へ楽しい時間を届けることができました。早い時期に活動が再開できたのは、小さい頃から子ども劇場で活動をしている学生や青年たちが、真っ先に事務所の後片付けに取り掛かり、活動再開に向けてメンバーと汗を流してきたことが大きかったそうです。「子ども劇場の活動は子どもたちにとって、大切な場所であることが再認識できた」と副運営委員長の高橋さんは語ります。

大人だけではなく、子どもたちと一緒にイベントを運営していくところも子ども劇場の魅力のひとつです。それぞれの子どもの役割を持ち、友達や大人と協力しながら楽しい会場を演出しています。来場者の人たちと寄り添い、思いやりを持って接することや多くの仲間とイベントの成功を分かち合う体験は、一人一人の心の成長につながっています。家庭と学校でうまく自分を表現することができない子ども、子ども劇場という場を通して新しい自分を見つけています。

震災後、より人と人とのつながりが大切となる中、

仲間との絆を育み、子どもたちにとって安心できる場所として子ども劇場は活動を続けているのです。



大人に混ざって子どもも受付を担当

団体名：塩釜子ども劇場
住 所：多賀城市中央2-25-3
多賀城市市民活動サポートセンター内
レターケースNo. 17
電 話：070-6623-6559
FAX：022-309-3706(たがさぼ内)
E-mail：s_hm_sm@willcom.com
ブログ：http://www.geocities.co.jp/kodomogekijou/

取材を終えて 小さな声を聞き逃さない

被災による不安、生活の変化によるストレスなど、大人同様に子どもたちは震災を敏感に受け止めています。

震災後、今まで一人で寝ることのできた子どもが急に怖がるようになった、よく泣くようになってしまった、

といった変化が見られています。子どもたちは言葉で震災の不安を語らず、行動の変化でメッセージを伝えているのかもしれませんが、もし、こういった小さな声に気づいた方がいましたら、ぜひ今回紹介した団体にお問い合わせください。

自治会・町内会活動紹介

城南仮設住宅自治会

—自分たちのことは自分たちで決める—

すべてがはじめて

J R 国府多賀城駅前にある城南の仮設住宅(54戸)に自治会ができたのは昨年(2015年)の7月2日。それまで入居者がそれぞれ各所へ支援を要請し、思うような支援がなかなか受けられない現状に課題を感じた現会長の菅原宏さんは、同じ避難所にいた7、8名と自治会を立ち上げることにしました。役員(役員)の選出、会則の作成、会議の進め方、会費の徴収、すべてがはじめての中で、周辺の自治会やNPOに支えられながらこれまで活動を続けました。今ではNPO、企業などによる仮設住宅への支援の窓口として大きな役割を果たしています。

多くの支えを生活再建へ

周辺住民、NPO、企業、行政を含め「さまざまな人に支えられている自治会です。」と菅原さんは笑顔で話します。城南仮設住宅自治会には、NPO災害復興支援コーディネーター蓮笑(「えん+じん」第3号掲載)が継続してサポートを行っています。例えば、会議が脱線しないように進行したり、議事録や会則の作成をお手伝いしたり自治会の運営を支えています。

昨年12月に自治会主催の餅つき大会も開催され、自分たちの力でイベントを企画するまでになりました。役員だけではなく、お母さんたちも餅の切り分けや調理など、企画の実施に携わったそうです。

小さな声に耳を傾ける

自治会発足後は、集会所や周辺での花壇づくり、カレーパーティーなどを通して少しずつ顔の見える関係をつくり、お互い(お互い)にあいさつ(あいさつ)をかわすことも多くなりました。仮設住宅全体も設置当初の重苦しい雰囲気と比べ、だいぶ変わってきたそうです。なにより住民同士で話し合い(話し合い)を重ねながら、自分たちの約束事(約束事)や役割を決めて「おたがいさま」(おたがいさま)の関係を築き上げていることがスムーズな運営につながっています。自治会を運営する上で特に気をつけていることは「人の話(話)にきちんと耳を傾けること」と菅原さんは話します。小さな声でも真摯(まじし)に受けとめていることから、生活再建に必要なニーズ(ニーズ)が明らかになります。住民同士(住民同士)の支え合い(支え合い)が、復興(復興)につながっています。



たがさぽ情報ツール

たがさぽでは、さまざまなツールを通じて被災者支援や復興活動についての情報をお届けしています。

紙媒体による情報

○チラシラック

NPOによるイベントチラシや団体紹介チラシを配架しています。震災によって悩みや不安を抱えている方(方)に対しての相談窓口(相談窓口)、生活用品が必要な方(方)に対して支援(支援)を行っている団体情報(団体情報)、また、県内(県内)の復興イベント情報(イベント情報)などを手に取ることができます。

○団体情報ファイル

団体のパンフレット(パンフレット)、チラシ(チラシ)、新聞記事(新聞記事)などを団体ごと(団体ごと)に分けてストック(ストック)しています。困りごと(困りごと)があった時(時)や活動(活動)に参加(参加)したい場合(場合)に適切な団体(団体)の情報を収集(収集)することができます。

○新聞記事ファイル

NPOに関する新聞記事(新聞記事)を閲覧(閲覧)できます。NPOによる支援(支援)の情報が知りたい時(時)や復興活動(復興活動)の参考事例(参考事例)を探(探)している時(時)に活用(活用)することができます。

インターネットでの情報

○たがさぽホームページ

NPOの復興イベント(復興イベント)や講座(講座)、相談会(相談会)・交流会(交流会)の情報をイベントカレンダー(イベントカレンダー)として掲載(掲載)しています。たがさぽ(たがさぽ)に来館(来館)できない場合(場合)でも、ホームページ(ホームページ)から情報(情報)を見ることができます。

<http://www.tagasapo.org/>

○たがさぽブログ

主に多賀城市内(多賀城市内)の被災者支援(被災者支援)、復興支援(復興支援)を行っている団体(団体)や復興イベント(復興イベント)の紹介(紹介)など、多賀城(多賀城)の復興(復興)に関する情報(情報)を素早く得(得)ることができます。

<http://blog.canpan.info/tagasapo/>

○Twitter

イベント(イベント)の告知(告知)やたがさぽ(たがさぽ)、多賀城市内(多賀城市内)の様子(様子)を紹介(紹介)します。ぜひフォロー(フォロー)してください。

<http://twitter.com/tagasapo>

◇「えん+じん」バックナンバー◇

インターネット(インターネット)につながる環境(環境)がある方(方)は、たがさぽ(たがさぽ)ホームページ(ホームページ)にてバックナンバー(バックナンバー)をダウンロード(ダウンロード)することができます。

また、ご希望(ご希望)の方(方)はたがさぽ(たがさぽ)窓口(窓口)にてバックナンバー(バックナンバー)をお渡し(お渡し)します。

ホームページ: <http://www.tagasapo.org/>

□発行: 多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 多賀城市中央二丁目25-3

(多賀城市文化センター北隣、上水道部向かい)

TEL: 022-368-7745 FAX: 022-309-3706

ホームページ: <http://www.tagasapo.org/>

スタッフブログ: <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

Twitter U R L: <http://twitter.com/tagasapo>

アカウント: @tagasapo

□編集: 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター